

# 二学期制試行、2年目の深化

～小規模校のメリットを生かした取組～

曾爾村立曾爾中学校

## 取組の特色や要旨

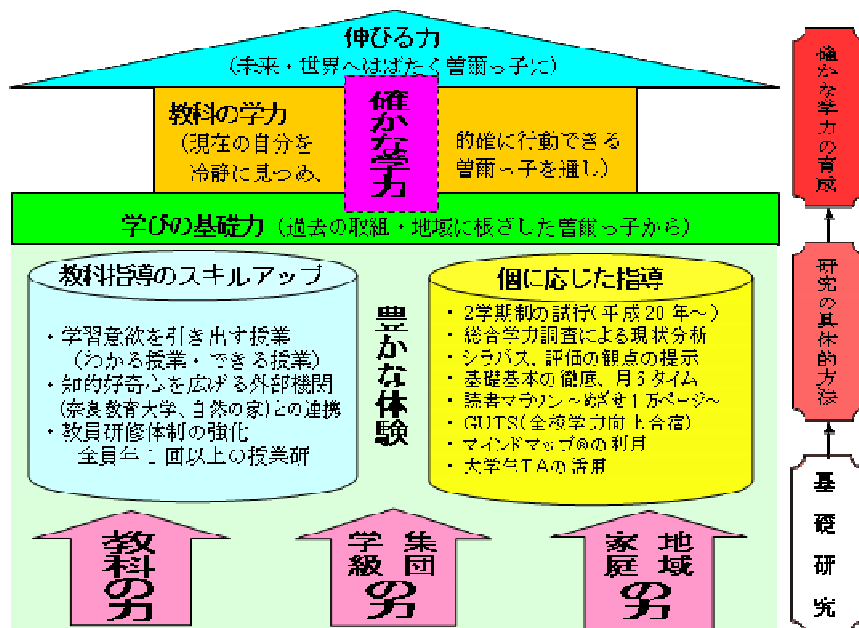
本校は全校生 39 人(平成 21 年度)、山間へき地の小規模校である。概ね生徒は素直で責任感はあるものの、「数学の授業は好きですか」「自分には、よいところがあると思いますか」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」等に肯定的に回答する割合が比較的低く、課題があることが分かった(平成 21 年度全国学力・学習状況調査による)。また、特に数学 A(主に知識に関する調査)にも課題が見られたので、基礎学力を定着させるために宿題や補習を課したり、コミュニケーション能力を向上させるために見聞や実感を伴うような豊かな体験を多くさせたりすることでその解決を図ろうと、全校体制で取組を進めた。

本校では、平成 17 年度より奈良教育大学の先導理数プロジェクト(新世代を先導する理数科教員養成プログラム)と連携した「サマースクール」や「ウィンタースクール」などにおける理科や数学の実験や実習を通し、大学生や大学教員との交流を続けている。

また、授業時数の確保に向け、平成 20 年度から二学期制を試行している。さらに 12 月には村内の国立曾爾青少年自然の家で二泊三日の「全校学力向上合宿(通称GUTS)」を実施した。

その結果、改善の余地はまだ多いが、数学の基礎的な力が向上し、大学生との交流が楽しみだという声が多く聞かれるようになってきている。

## ◎曾爾中学校 学力向上研究構想図



本校では、学力向上拠点形成事業(平成 17 年～19 年)や学力向上実践研究推進事業(平成 20 年～)などの文部科学省の指定研究や県へき地教育研究大会(平成 18 年)などを通して、「学力向上」「キャリア教育」「ふるさと学習」を三本柱に据え、『オンリー1でナンバー1の学校に』『だれもが行きたい、行かせたい学校に』を合言葉に様々な取組を行ってきた。

## ◎本事業における実施内容

### 授業改善に向けた取組

- 校内体制の整備（二学期制の試行）

昨年度（平成20年度）より、授業時数等の確保に向け、二学期制を試行している。夏休み前の最終日や冬休み明けの初日にも2時間の授業を行っている。昨年度は一昨年度に比べ、休日の並びや天候不順等により出席日数が4日減だったが、総授業時数は前年度とほぼ同日だった。したがって「5限授業×4日」の約20時間、授業時数が確保できると考えられる。

- 分かる授業を目指した職員研修の充実

全教員が年1回の研究授業を開催。国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育の7教科で、できる限り指導主事を招へいして指導をいただいた。

- 奈良教育大学（先導理数～新理数）との連携

#### ① サマースクール（夏休み中の4日間）、ウィンタースクール（3月中の1日）

数学や理科の実験・体験などを通して、より一層の学力の向上を計画的かつ継続的に実施している。今回の「サマースクール」では講師の指導の下にスルメイカの解剖を行い、スポイトに入れたしょうゆを口から注入して消化管を調べたり、過酸化水素水を使って「青い血液」を確認したりした。



#### ② 教育実習生の受入れ（6月の4週間）

サマースクール等で交流している大学生が理科の教育実習生として来校。村内の民宿に下宿し、スクールバスで通勤した。村では若者の流出も増える中、若い先生との触れ合いを通して、コミュニケーション力の育成にも役立った。

### 学習習慣の定着に向けた取組

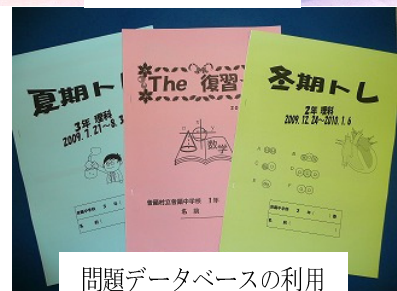
- 「月6タイム」の実施

月曜日の6限目は、全校生が多目的室と図書室に集まり、自主学習を行う時間を設定。宿題をする者や受験用問題集の質問をする者など、積極的な姿勢が見られる。



- 「問題データベース」の利用

学習進度や理解度に応じてWebから問題シートをダウンロードできる、東京書籍「問題データベース」を利用して、夏期・冬期休業中やGUTS（後述）で復習し、基礎学力の定着に努めた。



- 「GUTS（全校学力向上合宿）」  
の実施（12月）

《Gakuryoku Up Training in Soni の略》

「学力を徹底して鍛え上げ、家庭学習の習慣化を図り、  
集中力や自律心、コミュニケーション力の向上を目指す」

初雪が積もる中、国立曽爾青少年自然の家に教室を移し、二泊三日の学習合宿を行った。のべ9人の大学生にTA（ティーチングアシスタント）として協力を得て、1日8時間の授業と早朝・夜の自主学习を通して、家庭学習の習慣化や集中力アップを図った。また、野外合奏（日暮れの静かな高原で、高原の音響効果を利用した合奏）・測量（地形図とメジャーを頼りにお



大学生による

亀池の周囲を測る）・瞑想タイム（精神統一をして自分を見つめる）・音読破（2時間近くかけ、「風の又三郎」の全員音読）・大学生による「私の勉強法」など学校ではできない取組にも挑戦した。



瞑想タイム



音読破「風の又三郎」



退所式の後で...

## 第2回 GUTS~Gakuryoku Up Training in Soni~活動計画《最終決定版》

開始時刻	2009年12月16日(水)		2009年12月17日(木)		2009年12月18日(金)	
終了時刻	活動計画	備考	活動計画	備考	活動計画	備考
Sは開始時刻!	2009年12月16日(水)		2009年12月17日(木)		2009年12月18日(金)	
5:30 S	・中学生は8:00発の特別便に乗車する。 (新弁天橋方面28人:スクールバス)		3年 5:30起床		3年 5:30起床	
6:00	(山粕方面 11人:スクールバス)		1・2年 (自主学)		1・2年 (自主学)	
6:30 S	※欠席連絡は、8:00までに学校へ		6:30起床(整理:整頓): ◆2Fやすらぎ		6:30起床(整理:整頓): ◆2Fやすらぎ	
7:00	曽爾中学校TEL:0745(94)2014		7:00清掃/7:15朝の集い◆1Fロビー	日出 7:00	7:00清掃/7:15朝の集い◆1Fロビー	日出 7:01
7:30 S	◆宿泊棟=1・2年:きのご棟、3年:さかな棟		7:30朝食/自由時間		7:30朝食/荷物を持って教室へ	
8:00	★教室=1年:よろい、2年:かぶと、3年:びょうぶ		8:35瞑想タイム◆くろそ		8:35瞑想タイム◆くろそ	
8:30 S	入所式◆1Fロビー(レストラン前)/入室		(1年 2年 3年) 職員室		(1年 2年 3年)	
9:00						
9:50	1限目(社会・英語・国語)	かめやま	1限目(英語・数学・社会)	《体操服》	1限目(国語・社会・数学)	《体操服》
10:00						
10:50	2限目(英語・理科・数学)	《制服》	2限目(数学・社会・国語)		2限目(理科・英語・国語)	
11:00						
11:50	3限目(理科・国語・社会)		3限目(社会・英語・数学)		3限目(社会・数学・理科)	
12:00	持参弁当(戸外orびょうぶ) 自由時間(体操服へ着替え)		昼食(食堂)/自由時間(制服へ着替え)		昼食(食堂)/自由時間(制服へ着替え)	
13:00						
13:50	4限目(美術・理科)		4限目(健康教室)		4限目(英語・国語・社会)	
14:00	◆戸外or館内		◆びょうぶ		《制服》	
14:50	5限目(国語・数学・英語)	《体操服》	5限目(音読破(国語))	《制服》	5限目(数学・理科・英語)	教室で着替え
15:00			6限目(◆びょうぶ)		6限目「生徒会球技大会」◆プレイホール/着替え	
15:50	6限目(保健体育)					
16:00	◆プレイホール					
16:00	自由時間(着替え)		自由時間(着替え)			
16:50 S	夕べの集い◆1Fロビー	日入16:48	夕べの集い◆1Fロビー	日入16:49	16:15退所式◆集いの広場★集合写真	
17:00					16:30の特別便で一斉下校	
17:50	夕食/自由時間		夕食/自由時間		※スクールバス2台、山粕・弁天へ	
18:00	7限目(学活「私の勉強法」from大学生)		7限目「天体の学習」(理科)野外観望を含む		※大学生チューター	
18:50	◆びょうぶ		◆びょうぶ ※防寒着の着用		16日:5人	
19:00	8限目:1・2年は「国語」3年は「自主学习」		8限目(音楽・英語)		17日:4人	
19:50	百人一首◆1Fやすらぎ ◆2Fやすらぎ					
20:00						
21:00	入浴/自由時間		入浴/自由時間			
21:50	9限目(1・2年は宿題、3年は「自主学习」)		9限目(1・2年は宿題、3年は「自主学习」)			
22:00	◆さかな棟やすらぎの部屋		◆さかな棟やすらぎの部屋			
22:30	就寝準備:部長会議:1日の反省 3年希望者は最終就寝(ねまきor体操服) 就寝23:00		就寝準備:部長会議:1日の反省 3年希望者は最終就寝(ねまきor体操服) 就寝23:00			
備考	◆自習室:さかな棟「やすらぎの部屋」1・2年生は1F、3年生は2F。※夜食(パン)有り。		※睡眠時間:1・2年=8:00,3年=6:30~7:30			
			※夜食(パン)有り。			

## GUTS後の生徒の感想より

- こんなに集中して勉強したのは初めてだ。(1年)
- 3日間テレビもゲームも無い生活はいやだなと思ったけど、思っていたより全部楽しかった。(2年)
- 一人で勉強していると途中であきらめてしまい、長続きしないけれど、みんなで一緒に勉強すると3日間がアツという間に過ぎてしまい、分からなかった所も教えてもらって出来るようになった。(3年)
- 寒かったけど久しぶりに改めてゆっくり星を見て「本当にキレイやなあ」と見とれていました。(1年)
- 瞑想タイムは足が痛かったけど、気分が落ち着いた。(2年)
- 音読破は、一番しんどかったけれど、これをやったらこれからは少々しんどいことでもがんばって乗り越えていけると思った。(3年)

## 学力調査の活用にあたって

### ○ 「総合学力調査(ベネッセ)」の実施

本校では、3年生が全国学力・学習状況調査を行う日に合わせて、1・2年生も総合学力調査(ベネッセ)を実施している。この調査では、五教科の他に学習意識に関するアンケート調査も含まれていて、教科の好き嫌いと理解度の関係、自己効力感や学習習慣等の学びの基礎力、問題解決力や自己成長力などもグラフ化されて示される。

それによると、1年時には「教科も好きで理解度も高い」ゾーンに入っている「理科」と「数学」が2年時になると「嫌いな教科」のゾーンに移ることが分かった。それでもまだ「理解度」は5割を超えているが、「嫌い」なイメージが学習意欲を減少させ「理解度」も下げていくという悪循環に落ち込む前に手立てを講じる必要がある。

### ○ 「全国学力・学習状況調査」を再度実施(数学A)

平成21年度の全国学力・学習状況調査から、本校の課題としてクローズアップされたのが、「数学A」の弱さであった。そこで、前述の「学習習慣の定着に向けた取組」を実施し、平成22年1月に再度同じ問題を実施し、基礎学力の定着度を確かめた。結果については、**成果と課題**(後述)参照。

### ○ 「マインドマップ®講演会」の実施

「マインドマップ®」とは、英国のトニー・ブザン氏が考案した放射思考のツールで、創造性や記憶力を高める有効な手段として注目されている。未整理の情報でも、このマップなら思いつくままに書き始めることができ、それを提示し、意見をまとめるときにも有効な方法である。

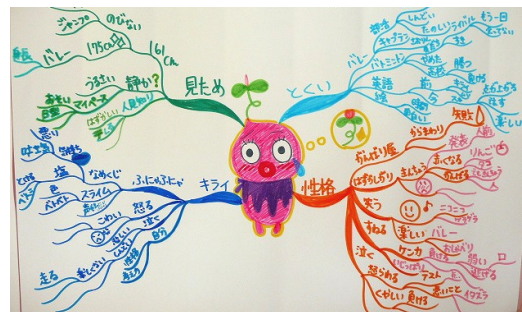
その後、「ブザン教育協会」による講師派遣が実現し、内山雅人氏による講演会を7月15日に開催した。



マインドマップを使った  
板書例

現在、授業におけるマインドマップの活用法を模索しているところである。

### ◎ 成果と課題



マインドマップで「自分」を表現する(生徒作品)



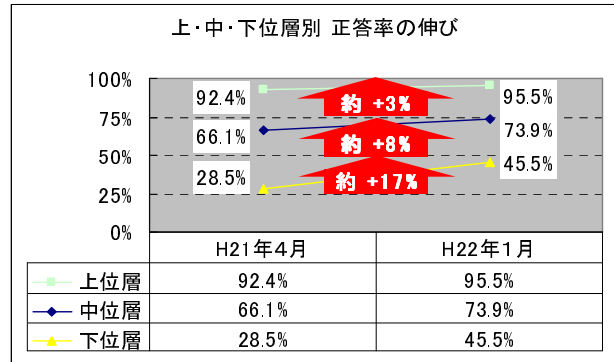
マインドマップによる「雲の種類」(生徒作品)

## 題

### (1) 学力の向上

平成21年4月に実施した全国学力・学習状況調査で課題が見つかった「数学A」を平成22年1月に再度3年生に実施したところ、次のような結果になった。

- ① 平均正答率が、9.7ポイント上昇した。
- ② 4月の正答率をもとに上位層・中位層・下位層に分け、1月の上昇度を見ると、上位層は+3%の伸びに留まったが、下位層は+17%の伸びとなった。中位層の伸びはその中間(+8%)であった。



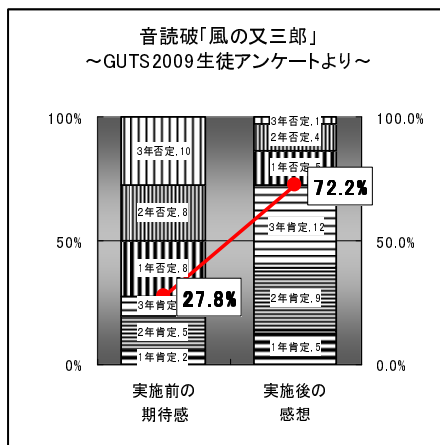
正答率が3割弱だったグループが5割弱まで基礎学力を伸ばしたという結果は注目すべきものである。基礎学力を確かなものにするのが、全体の正答率を高めることにつながったと考えられる。

### (2) 学習意欲

4月の全国学力・学習状況調査において、「数学の勉強が好きですか」の問いに肯定的に答えた生徒は約30%、「数学の勉強は大切だと思いますか」の問いに肯定的に答えた生徒は約80%で、その差が約50ポイントもあった。再度翌2月に調査したところ、前問に肯定的に答えた生徒がほぼ半数に増え、差が25ポイントに縮まった。

また、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」の問いに肯定的に答えた生徒も約80%からほぼ全員に上昇した。ただ、「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに肯定的に答えた生徒は約60%から約10ポイント減少してしまった。

平成22年度2月上旬に実施した学校生活についての生徒アンケートで、「二学期制は曾爾中にとってプラスだった」の問いに肯定的に答えた生徒は3分の1を下回り、「分からない」と答えた生徒も3分の1を超えるという厳しい結果となった。この傾向は昨年度と同様で二学期制のメリットが生徒に十分に理解されていない現状を示している。



また、生徒アンケートで「先生は分かりやすく、ていねいな授業をしている」の項目には4分の3の生徒が肯定的に答えているが、「学校へ行くのが楽しい」の項目に肯定的に答えた生徒は昨年度より減少し50%を下回った。GUTS初めての試み「音読破」では期待感は低かったが、実施後は7割以上の生徒が「良かった」と答えている。「学校へ行くのが楽しい」生徒を増やすために、生徒が主体的に活動し、達成感が得られるような取組の工夫が必要である。

### (3) 基本的な生活習慣、規範意識

平成21年度全国学力・学習状況調査で「学校の規則を守っていますか」や「近所の人に会

ったときはあいさつをしていますか」の項目に9割以上の生徒が肯定的に答えている。

ここ数年実施されている村住民生活課主催「中学生食育教室」で健康管理のための食のあり方について考え、村内の食生活推進委員さんと共に献立作成・調理実習を行った。1年生は老人ホームへの訪問も実施しているが、今後も地域社会とつながるような取組を行うことで生活習慣や規範意識をより高めていけるものと考えている。

#### (4) 家庭での実態

生徒アンケートで「家族に学校での出来事をよく話す」の項目に6割以上の生徒が肯定的に答え、全国学力・学習状況調査の結果とほぼ同じ結果となった。

また、帰宅後の学習を促すため、宿題を多く出すようにしている。宿題のチェックも短時間で済むのは小規模校ならではのメリットである。宿題を忘れる生徒は少なく、提出状況もよい。

#### (5) まとめ

小規模校は現状の学力指標を得にくい状況がある。そこで本校では、全国学力・学習状況調査が実施される前から、ベネッセ総合学力調査などを利用して現状分析を行い、様々な取組（豊かな体験）を通して、確かな学力を育てようとしてきた。その結果は全国学力・学習状況調査において、B問題（主として活用に関する問題）の好結果となって現れ始めている。しかし、小規模校では学年集団による偏差が大きく、集団に応じた指導が必要だったり、A問題（主として知識に関する問題）に課題が見られたりすることが分かってきた。

また、小規模校では小さいころから人間関係が固定的で、自分の殻を破れない者も見受けられる。今後も、外へ視野を広げさせるような取組を続けるとともに、小さな失敗を許しながら、生徒に主体的に自由に企画・活動させるような取組を増やしていく必要性を感じた。

本校は卒業生の半数以上が村を離れる。卒業生が、高校や社会で自分の力を信じ、胸を張って新しいことにチャレンジしているニュースを聞いたとき、それに勝る喜びはない。伸びる力を持ち続け、ワクワクするような毎日となるよう、今後も個に応じた取組、小学校・地域・大学、保護者との連携をさらに強めた取組を続けることが本校にとって重要だと考えている。